

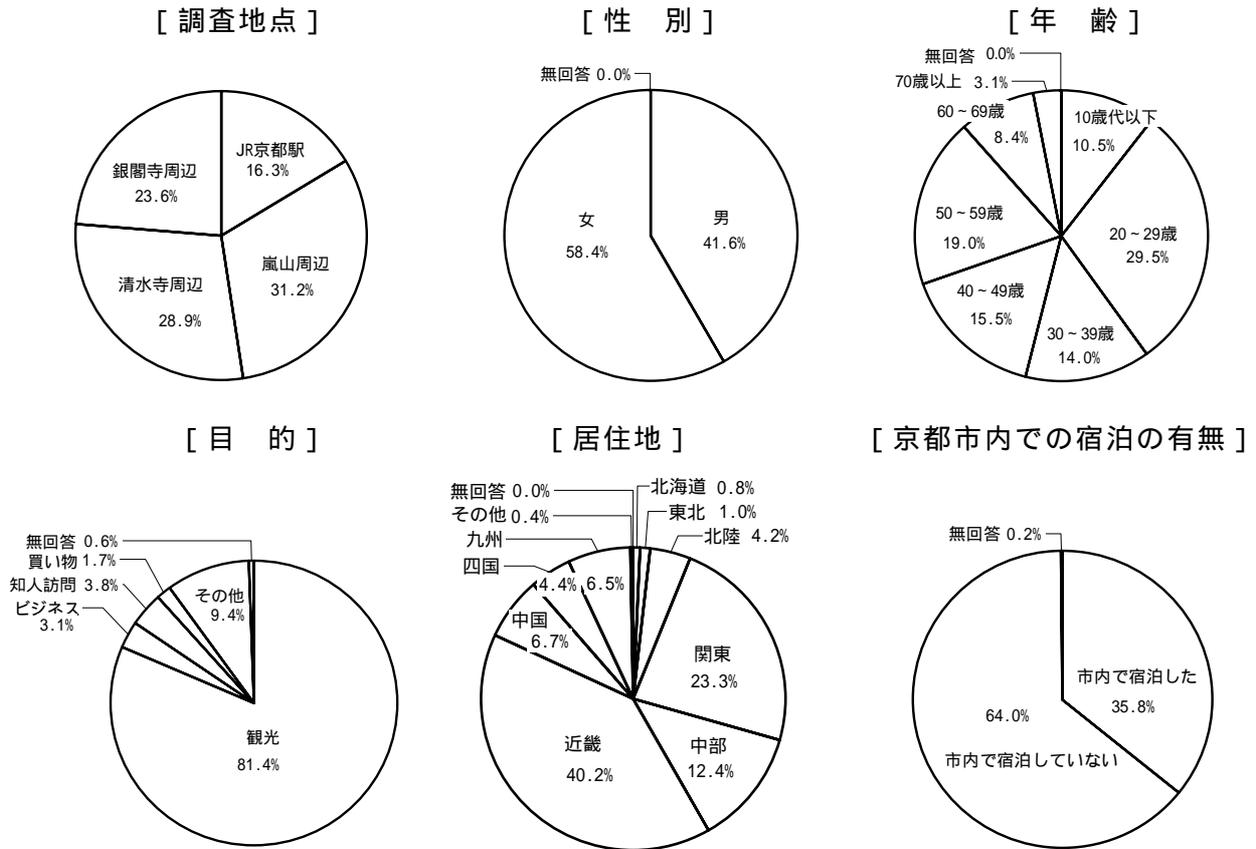
## 入洛客へのアンケート調査結果概要

京都市内の観光地等（JR京都駅、嵐山周辺、清水寺周辺、銀閣寺周辺）で、京都市外から京都市へ来られた方（以下「入洛客」という。）を対象に、聴き取りによるアンケート調査を実施し、回答が得られた478人の調査結果の概要を以下に示す。

### 1. 回答者のプロフィール

回答者のプロフィールは図1に示すとおりである。

図1 回答者のプロフィール



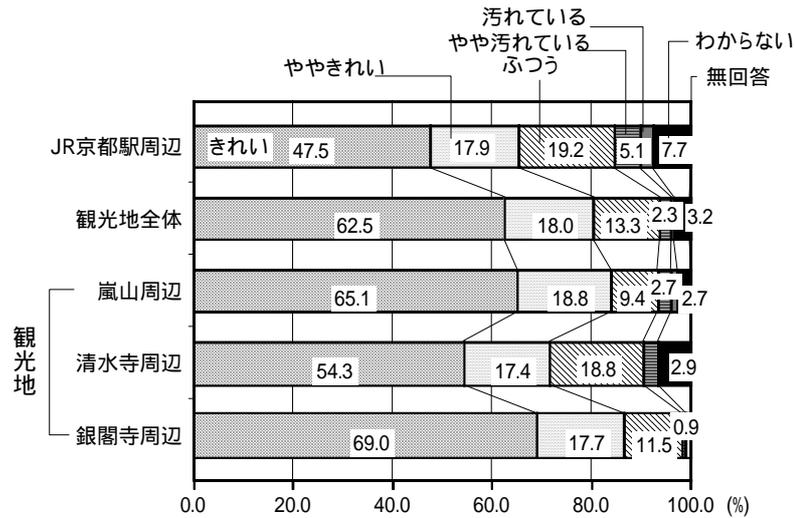
### 2. 繁華街や観光地の『まち美化』についての印象

各調査地点における、散乱ごみ等『まちの美化』についてうけた印象を図2に示す。入洛客には調査地点での『まちの美化』をどのように感じたかを聴き取りしており、JR京都駅周辺、嵐山周辺、清水寺周辺及び銀閣寺周辺別に集計した。なお、嵐山周辺、清水寺周辺、銀閣寺周辺を合わせて『観光地』として別途集計している。

JR京都駅周辺では「きれい」が約47%、「ややきれい」が約18%であった。

観光地で全体では「きれい」が約63%、「ややきれい」が約18%であった。調査地点別の「きれい」の割合は、銀閣寺周辺が約69%、嵐山周辺が約65%、清水寺周辺が約54%であり、入洛客には概ねきれいとの印象を持たれている。

図2 「まち美化」についての印象



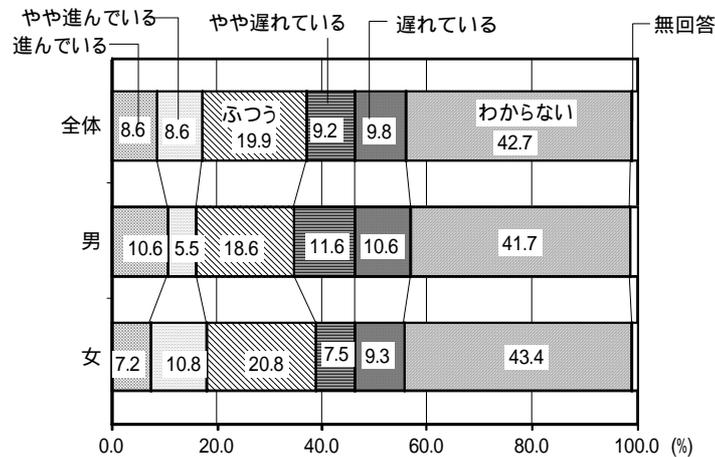
3. 京都市内でのごみの分別排出についての印象

駅や公共施設でのごみ箱の設置状況からみて、分別排出が進んでいると感じられたかについて図3に示す。

「進んでいる」～「ふつう」が約37%であった。

「やや遅れている」「遅れている」が約19%と遅れているとの印象を持った人も多かったが、市内でごみを捨てなかったためか、「わからない」が全体の4割以上を占めていた。

図3 市内でのごみ分別排出が進んでいるかどうかの印象



4. ホテルや旅館の環境の取組への印象及びタオル交換についての意向

市内でホテルや旅館に宿泊したと回答した入洛客171人の、ホテルや旅館の環境の取組状況から受けた印象を図4に示す。また、ホテルや旅館に連泊時に『タオル交換』の希望を聞かれた場合の対応について入洛者全体の回答を図5に示す。

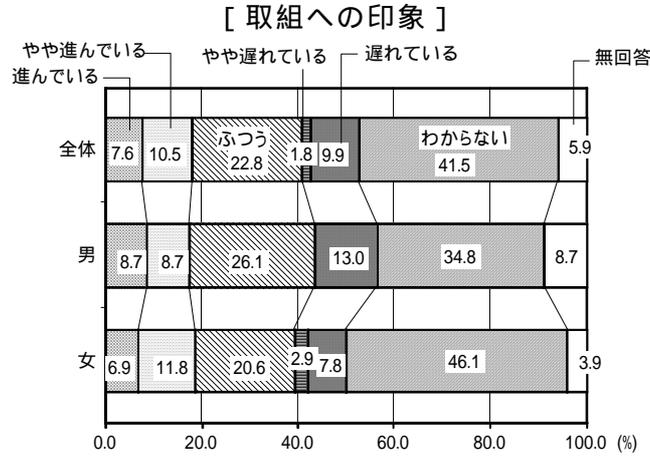
「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせ、進んだ印象を持った人が約18%、「遅れている」「やや遅れている」を合わせ、遅れた印象を持った人が約12%、「ふつう」が約23%であった。

進んだ印象を持った人の理由としては「シャンプー、リンス等が小さなボトルではなく、ノズルを押すと1回分の使用量が出るボトルを置いている。」が最も多く、次いで

「適切な種類や量のアメニティグッズを置いている」となっていた。

ホテルや旅館に連泊時のタオル類の交換を尋ねられた場合の意向は、「断らない」が約58%であった。

図4 ホテルや旅館の環境の取組への印象



[ 進んでいる、やや進んでいると感じた理由 (複数回答) ]

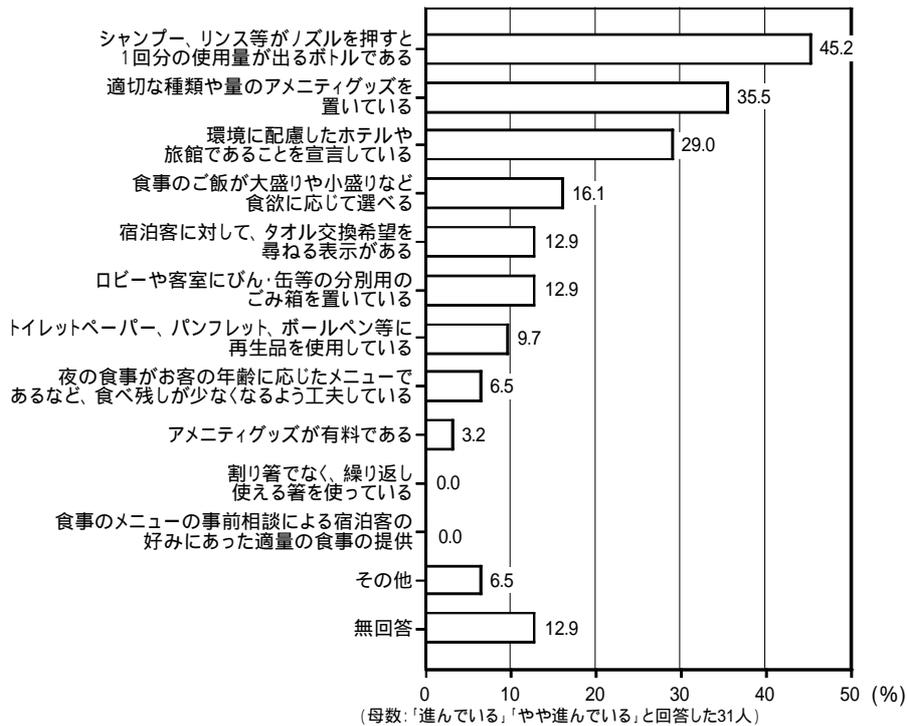
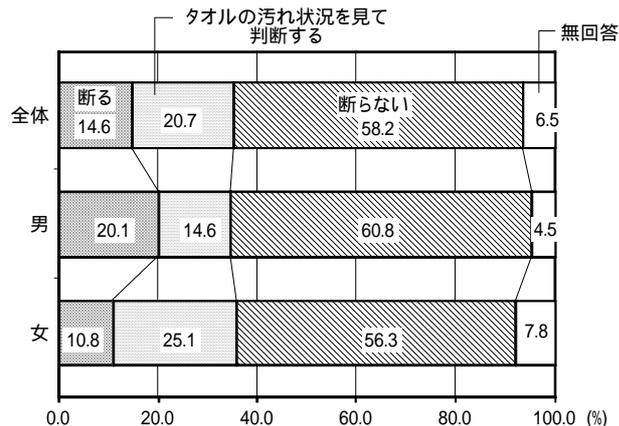


図5 連泊時のタオル交換についての意向

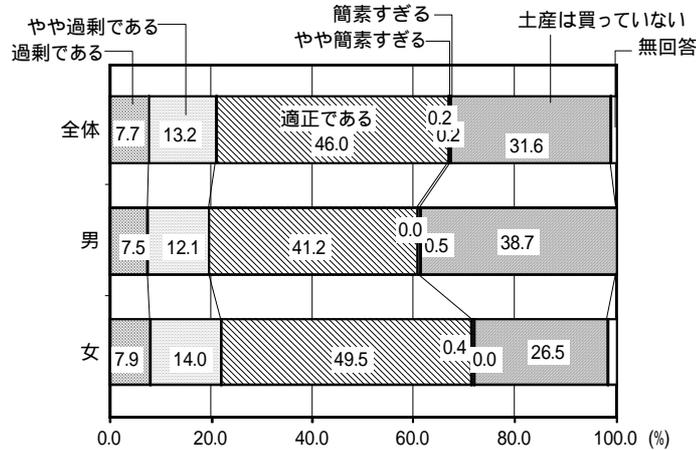


5. お土産の包装についての印象

お土産の包装についての印象を図6に示す。

約46%が「適正である」と回答していたが、「過剰である」「やや過剰である」を合わせて、約21%がお土産の包装が過剰との印象を持っていた。

図6 お土産の包装についての印象



6. 京都市の循環型社会形成に向けた取組についてのイメージ

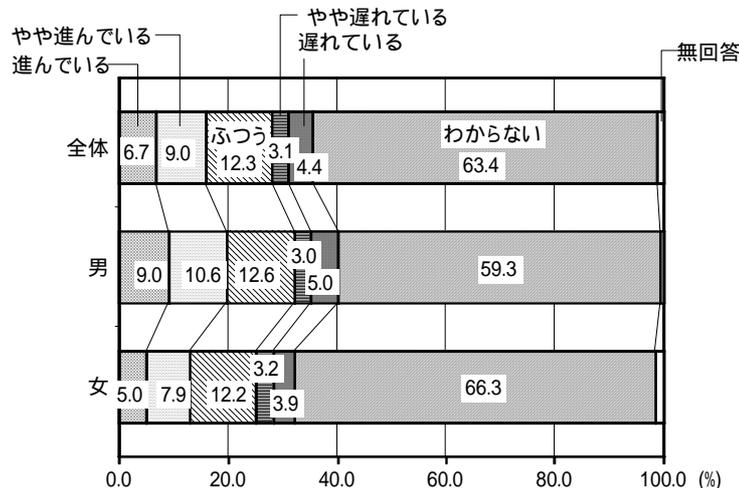
京都市の循環型社会形成に向けた取組についてのイメージを図7に示す。

「進んでいる」「やや進んでいる」を合わせ、進んでいるイメージを持っている人が約16%で、その理由としては「COP の開催都市」や「市民による門前清掃」等が多くなっていた。

『京都市の循環型社会形成に向けた取組』について「わからない」が6割以上を占めていた。入洛客は観光客が多く、京都市の取組が浸透していない、比較の対象となる情報を持っていないや循環型社会形成という言葉へのなじみが少ない等のためと考えられる。

図7 循環型社会形成に向けた取組のイメージ

[ 取組のイメージ ]



[イメージの理由となる項目(複数回答)]

